

令和2年度 都農町立都農南小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

評定 「4：たいへんよく取り組んでいる」「3：よく取り組んでいる方である」「2：少し改善(努力)することがある」「1：まだ改善(努力)しなければならない」

評価項目	評価指標	評価する内容	学校の自己評価結果コメント ○結果の考察・分析 ■改善策等	自己評定	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
学力向上	① 学力向上を目指した授業の工夫・改善がなされている。	・南っ子検定での取組 ・作品投稿での取組 ・校内研修に関する単元テストの結果	○ 低学年は回数を重ねるごとに合格者が増えている。月1回の南っ子検定に向けて、練習に熱心に取り組む、学習の素地となる計算力、漢字力を身に付けることができる機会となっている。 ○ 今年度はどの学年も投稿があり、宮日新聞「若い目」の掲載やm r t ラジオ「私たちの作文」や放送も多くなり、書く意欲が高まってきた。 ○ 校内研究の結果では、各学年のテストの結果のまとめで「思考・判断・表現」の到達度が低く、算数において顕著である。 ■ 南っ子検定、投稿とも引き続き取り組み、作文等の投稿では、各学年まんべんなく掲載、放送ともされるように仕向けていく。また、校内研究においては、思考を大切に授業に努め、思考を必要とする問題の類似問題を経験させるようにする。そして、「考えながら聞く」ことを大切にしていく。	保護者…2.8 児童…3.5 職員…3.2	3.1	○ 本年度はコロナウイルス感染症予防のため、赤ペン先生の来校は控えられたが、「南っ子検定」の取組で学力向上が感じられるので、これからも楽しんで学習に取り組むことができるようになるという。 ○ 合格者が増えているのは素晴らしいと思う。基本的なことを繰り返して覚える機会になっていて、今後も続けて欲しい。 ○ 学校側の取組に対して、子どもたちのがんばっていることは、いろいろな面で伝わってくる。保護者は大変だと思うが、今が関わり合う重要な時期だと思うので、学校にだけ任せるとはならず、がんばってほしい。 ○ m r t ラジオや宮日新聞で子どもたちの作品が紹介されていることがとてもいい影響につながっている。これからも大いに進めていってほしい。 ○ 新聞の掲載はよく目にする。たくさんの人に見てもらおうことで、子どもたちの意欲向上につながっていると思うので、たくさんの子どもの目に経験させてほしい。 ○ 作文などの表彰者の中に南小の児童の名前がたくさんあった。表彰されることによりその子の自信につながると思うので、これからもコンクールなどに多くの児童作品を出してもらえるとよい。
	② 家庭学習で学年に応じた時間と内容を学習する習慣を育成している。	・家庭学習頑張りカード(学期1回)の結果	○ 今年度は評価項目を見直し、学習時間よりも集中すること、最後までやり遂げる項目に変更した。しかし、パーフェクト賞の評価規準が厳しかったため、パーフェクト賞は少ない結果となった。 ■ 土日は少年団活動等で評価が難しいので、平日のみ調査とし、取組の啓発を継続していく。			○ 学力向上は家庭での学習が重要であると言える。引き続き、最後までやり遂げる習慣を身に付ける取組を続けてほしい。 ○ 集中してやり遂げることはハードルが高いとは思いますが、最短の道だと思う。 ○ パーフェクト賞は簡単になりすぎてもよくないと思うので、「いつもより少しがんばれば獲得できる」ラインがいいのではないかなと思う。達成できなさすぎても意欲が下がる気がする。 ○ 少年団の活動があると、休日に試合などが入ったりすると家庭学習の時間が取りにくいようだ。(疲れておてしまうことがある。)
	③ 読書に親しむ環境作りを進め、読書意欲を高める工夫がなされている。	・多読賞での取組 ・図書室環境の充実	○ 密を避けての図書室利用となったが、各学年の割当表を作成し活用するようにした。そのような中でも意欲的に読書活動に取り組み、読書量を増やす学年が多かった。 ○ 町図書司書が週1回入ることで、図書室の環境や設営に尽力していただいた。特に学級文庫の貸出手続きや新刊図書の紹介、季節に合った掲示物等、豊かな心を育む図書室となっていた。 ■ 読書量は学年に偏りがあり、来年度は効果的な呼びかけを工夫していきたい。			○ 新型コロナウイルス感染症の予防対策をしながら図書室の利用を行っていることは大変であると思うが、利用を途切れさせないことが大切である。これからも地道な取組を続けていってほしい。 ○ 町の図書司書の方が定期的に来てくださるのは大変よいと思う。 ○ 読書量の少ない学年が興味のある本を探るといい結果につながるのではないだろうか。 ○ 図書室の本の様子はわからないが、子どもたちが読みたいジャンルなどが入る図書室に行く子どもが増えるのではないだろうか。 ○ 今の子どもたちにとっては、メディアの氾濫等、よくも悪くも身の回りの物が多すぎるように感じられる。
豊かな心の育成	① 「気持ちのよいあいさつ」「相手を思いやる言葉遣い」の指導がなされている。	・あいさつ運動の実態(「学校評価アンケート」の結果) ・交通立番下校見届けでの児童の実態	○ 児童・保護者のあいさつへの意識は比較的高かった。毎朝のあいさつ運動や地域のボランティアの方の見守りがあり、児童の中には元気のよいあいさつをする手本となる者もたくさんいる。 ■ 次年度も児童会を中心にあいさつの大切さについて継続的に呼びかけていく。	児童…3.8 職員…3.4	3.4	○ 南小校区には、毎朝25名の方が見守りをされ、「あいさつ運動」と「交通安全」に取り組まれている。あいさつの大切さを呼びかけることは、大いに続けていってほしい。 ○ 南っ子の子どもたちと先生方のあいさつには、大変いいものを感じている。 ○ あいさつ運動は、素晴らしいと思う。朝、元気なあいさつをされるとこちらも気持ちが良い。 ○ 先生たちがいるところでは元気にあいさつをするが、いないところではしない子もいる。いつでも元気な声であいさつできるとよい。
	② 好ましい人間関係を育てる指導がなされている。	・教育相談の実態(「心のアンケート」の結果)	○ 半数以上の児童が、仲のよい友だちがいると答えており、保護者もおおよそ半数が子どもの仲のよい子を把握している。教育相談の充実により、子どもの困り感に関しては、寄り添った指導をしている。 ■ 次年度、個別相談の時間を教育課程に位置づけた。			○ 日常的に上級生が下級生を見守っている様子が見える。このやさしさを大切にしていってほしい。 ○ 今後も寄り添った指導を続けて、悩みなどを口に出せない子どもがいないかも気を付けてほしい。 ○ 友だちとけんかをして仲直りが難しい子どもがいるようなので、授業などでけんかをしてしまったときの対処法など、第三者の目線で見られるようになることの指導があるとよいと思う。 ○ 現在のような状況の中で、はつらつさが少ないように感じられる面がある。
体力向・健康増進	① 家庭と連携して健康的な生活習慣の育成が図られている。	・すこやか週間の取組 ・親子歯磨きの取組 ・学校薬剤師と連携した保健だよりの発行(講演会)の実施	○ 年間3回実施することができた。休校期間があったにもかかわらず、生活リズムを大きくくずすことなく過ごすことができていた。 ○ 学校薬剤師と連携して「ほけんだより」を発行することができた。 ○ 新型コロナウイルス感染症予防のため、学校保健委員会を実施することができなかつた。 ■ 予定していた実施できなかったものを実施する方向で、対策を取っていききたい。	児童…3.8 職員…3.5	3.4	○ 新型コロナウイルス感染症拡大の中、南小学校ではしっかりした生活リズムで学校生活を送っている児童が多いようである。先生方の日頃の取組の成果だと思う。今後もがんばってほしい。 ○ 休校期間でも生活リズムが保てたのはよかったと思う。 ○ 保護者には、学校をうまく利用するようにしてほしいと感じる。生活習慣を身に付けさせることで、健全に育てやすくなると思う。 ○ 「ほけんだより」も「今だからこそ」の情報発信としての役割を大切にしていってほしい。 ○ いつまで続くかわからないが、これからは学校でも家庭でも自分でできる新型コロナウイルス感染症対策を続けていってほしい。
	② 体力づくりに挑戦する場や時間を設定し、日常的に体力向上に取り組む指導がなされている。	・握力アップの取組 ・一輪車や竹馬等の運動器具の活用	○ 新型コロナウイルス感染症予防のため、例年行われている新体力テストを実施することができなかつた。握力アップの計測等が不十分であった。 ○ 新しい試みの一つとして竹馬大会を実施した。これにより竹馬を使って遊びながらバランス感覚などの体力づくりをする児童が増えてきている。 ■ 次年度は、一輪車等、更に運動の幅を広げていく試みを計画する。			○ 新型コロナウイルス感染症の広がりで活動が制限される中、これまでにない新しい試みがなされていることは、いいことだと感じられる。これからも継続していってほしい。 ○ 竹馬のように楽しみながら握力を鍛えられる遊びを、いろいろと工夫できるとよいと思う。 ○ 遊び心で取り組めば、楽しみながら体力向上ができてよい。 ○ 新型コロナウイルス感染症予防をしながらの体力づくりはよいと思う。楽しみながら体力づくりを続けてほしい。
地域連携	① 学校での授業や毎日のできごとが家庭や地域に情報として正確に流れている。	・チャレンジでの赤ペン先生による評価 ・安心メールや学校ホームページの活用状況(「学校評価アンケート」の結果)	○ 新型コロナウイルス感染症予防のため、赤ペン先生の来校を控えることとなり、残念な状態が続いてきた。チャレンジの時間は、職員だけで採点をしてきた。短い時間ながら積み重ねの大切さを改めて実感している。 ○ 学校評価アンケートの結果は、2.5ポイントと必ずしも高くはないが、昨年度と比較すると0.3ポイントアップしている。とは言え、まだまだ情報公開が不十分である。 ■ 保護者の声を集める等の工夫を考えていきたい。	保護者…2.5 職員…3.3	2.9	○ 本年度も「学校だより」で、新型コロナウイルス感染症対策をしながらの学校の様子が紹介され、安心できる思いがしている。 ○ 学校よりの情報を楽しみにしている。今後も、状況がよくなっていくことを願いながら関わっていきたく思っている。 ○ 赤ペン先生との交流は、子どもたちにとってもよい刺激になると思う。今年は実施できずに残念であった。 ○ 学校からの配付プリントを見せない子どもがいるようだ。提出があるプリントなどは、メールなどで知らせてほしいという声を聞く。

【次年度の取組について】

- 新型コロナウイルス感染症予防対策をしながらという困難な中ではあるが、引き続き「知・徳・体」の調和のとれた児童の育成に取り組んでほしい。元気のよいあいさつは南小の児童の伝統であるので、「よい言葉づかいをする」ということを地域とともに取り組むことが大切だと思う。
- 一部の方々(保護者)にも、楽しみ(あるいは苦しみ)に気付いていただけたらいいと思う。
- ホームページは、検索して開かないと見れないのだが、もったいない。時代に合わせて、SNSを活用してみてもどうだろうか。例えば、Facebookなどで子どもたちの作品をアップするなどすれば、より多くの作品を知ってもらうことができると思う。
- 結果も大事であるが、継続していくことにより、必ず向上していくと思う。心身共に元気であれば、何とか取り返しはできると思う。南っ子に幸あれ！

